

<http://outdoor.geocities.jp/tokinosunomori>

E-mail : tokinosunomori@yahoo.co.jp

<連絡先> 掛川市中宿 1 1 3 (TEL・FAX 0537-23-0412) 「森の駅 時ノ寿」(TEL 0537-28-0082)

<もくじ>

★ごあいさつ	1
★会員情報コーナー	2
★近況報告（時ノ寿ホームページ・ブログより）	
林道奉仕作業	3
陶芸教室始まる	3
静岡県林業者大会で得たもの	4
宮脇先生・掛川の鎮守の森を巡る	5
クラブ創立記念日・5周年	6
森づくりは国づくり・人づくり	7
★10～12月クラブ活動予定	別紙
★「日本伝統工芸展」「多治見工業高等学校専攻科50周年記念展」ご案内	別紙
★「時ノ寿 standard・木組の家」見学会ご案内	別紙
★「国際森林年記念シンポジウム」参加者募集のご案内	別紙

<ごあいさつ>

東日本大震災から半年が過ぎました。ふるさとへの強い愛着で、住民が手を携えながら農・漁・商・工の再出発に懸命に努力している一方、経済的な不安や子どもの健康への不安など現実問題のあまりの大きさに耐えかね、大勢の人々がふるさとを後にしています。また、紀伊半島各地で発生した台風 12 号による大洪水も、現代土木技術に安心させられてきた流域住民にとっては、信じられない悲しい大災害となってしまいました。

現代社会の中で、物質的豊かさに翻弄させられているうちに、自然の脅威や科学進歩のリスクに気づかずに来てしまったことが、反省させられます。地震列島で海に囲まれた7割が森林の国土、先人たちはその豊かな恵みと共生する心豊かな文化を築いてくれました。私たちは、その一つである優れた木の文化を見直し、それを普及啓発していこうと思います。それは、未来のために今を生きる私たちの使命である、と思いながら。

「・・・、災害の前に私たちは無力で、大切なものが容赦なく奪われて行きました。悔しくて、辛くてたまりません。・・・それでも、私たちは天を恨まず、助け合って生きて行こうと思います。それが私たちの使命だからです。」 3月下旬、気仙沼市階上中学校の卒業式で、何度も歯を食いしばり、涙をこらえ、天を仰ぎ、一つ一つ言葉を絞り出し答辞さ

れた卒業生の感動的な言葉が思い出されました。

<会員情報コーナー>

時ノ寿窯師匠・日本伝統工芸展に入選！

●● 理事徳川浩さん・黄瀬戸壺で6度目 ●●

徳川浩さんは、3年前まで岐阜県多治見市で陶芸作家として作陶されていましたが、ご縁あって静岡県掛川市倉真に移住されました。新天地で作陶に打ち込まれる一方、時ノ寿の森クラブにも強く共鳴され、今は理事としてもクラブ活動を支えています。奥様の小牧さんも陶芸作家ですが、このたび浩さんがひたすら追求してきた「黄瀬戸」の作品が、第58回日本伝統工芸展・陶芸部門で6度目の入選を果たされました。日本の伝統を守るため、また山村を活性化させるためにも、これから益々の活躍をクラブ員みんなで応援したいと思います。なお、「第58回日本伝統工芸展」、小牧さんの作品も展示されるご夫妻出身校の「岐阜県立多治見工業高等学校専攻科創設50周年記念展」が別紙のとおり開催されますので、展覧会へ皆様ぜひお出かけください。

時ノ寿 standard・木組の家が誕生！

◆◆構造見学会と土壁体験見学会が開催されます◆◆

副理事長清水國雄さんは、清水建築工房の一級建築士です。数々の科学的な建築に携わりながら、気持ちは日本の伝統的な木造建築、言い換えれば環境に負荷を掛けない素材と技と美に惹かれていました。そのような折、偶然にも時ノ寿の森クラブ構想に巡り合い、その趣旨・ビジョンに共鳴くださり、5年前クラブ創設から参加いただいています。

清水さんは、ふるさとの荒廃森林を再生させるためには、地元で育ったスギやヒノキを地域の家づくりに生かすことが不可欠だと考えてきました。地球温暖化防止、自然エネルギー推進が叫ばれる中、何でも機械的な装置に頼る建築が推奨されていますが、日本の伝統的な素材や技術を生かした建築こそ、低コストで可能な環境に優れ、地震に強い家づくりであると思います。清水建築工房は、そんな夢のある「時ノ寿 standard・木組の家」を誕生させました。見学会が別紙のとおり開催されます。ぜひご覧いただきたいと思います。

国際森林年記念シンポジウムご案内

～ パネルディスカッションに松浦理事長も出演 ～

国内外で起きるあらゆることが、今私たちのなすべきことは国土を守ることだと、すなわち森林国日本では森林を保全して行くことだと、教えてくれています。しかし、政治・行政・企業を見ても我が国の現実、その方向への動きが見えません。そのような折、別紙のとおり開催される「国際森林年記念シンポジウム」へお招きいただきました。「誰もができる森林保全」とは、まさに私たちの活動です。時ノ寿の森クラブの理念と実績とミッションを謙虚に話し、社会の多くの方に多様な形で森林保全に参加いただくよう、力まずに

呼び掛けてまいります。みなさまも、ぜひご参加ください。

＜近況報告＞ （時ノ寿ホームページ・ブログより）

2011年7月3日(日)

林道奉仕作業

この地方は盆が7月なので、ご先祖さんが我が家に帰って来たら辺りは夏草に覆われていたと言われないように（想像ですが）、人々は7月に入ると家の周りや所有している土地などの草刈りに追われる。そんなこんなで、元大沢集落の人々は、毎年7月第1週日曜日を年1回の林道奉仕作業の日としている。

今年は、この日に合わせて、森林所有者たちも一緒に林道奉仕作業に出てもらいたいと、案内を出してみた。しかし、参加してくれた所有者は対象者36人中4人だった。これが、今日の森林保全をして行く場合の現実で、所有者も大半が80歳を超える高齢者でもあるが、森林に対する所有者たちの価値観や義務感は薄れているのである。

森林を保全して行く課題は山積しているが、所有者たちとのコミュニケーションをとるのが第一歩だと思う。だから、呼びかけに4人参加してくれたのは成果である。このような現実の中で、森林所有者でもないわがクラブ会員は、6人参加してくれた。森林の公益的価値と財産的価値両面から、保全への参加者を今後も呼び掛けて行くことが大切だ。それにしても、暑い中で、少数での夏草刈りは大変でした。ご苦労様でした。



2011年7月24日(日)

陶芸教室始まる

クラブ員限定の陶芸教室「薪窯で『MYぐいのみ』をつくろう！」が、22日金曜日から始まりました。時ノ寿の森に出来た薪窯「時ノ寿窯」で、思い思いのオリジナル陶器を作って、生活に楽しさを広げてみませんか？と、陶芸家でもあるわがNP



〇の徳川理事が、会員みなさんに陶芸の面白さを教えてくれます。

きょう夕方、山の下草刈りから帰る途中に、徳川家の工房に立ち寄ってみたところ、会員Aさんが作品をつくり終え、満足げな顔で徳川夫妻と会話していた。一昨日から今日まで、すでに10人くらいの会員が作品づくりをされ、味のある作品がたくさん並んでいました。ぐいのみ、皿、カップなどなど。

出来上がりが楽しみです。焼き上げは、9月下旬です。写真は、陶芸家徳川浩さんの黄瀬戸焼です。

2011年8月4日(木)

静岡県林業者大会で得たもの

今日、掛川市内で静岡県林業者大会の講演会があり、一般者の聴講も可能であったので、聞きに行ってきた。厳しい経済環境の中で、どうやって林業を生業にして行ったらいいのか、最新情報や先進事例を内外から学ぼうという目的であろう。

講演会の講師は、NPO法人

「WoodsmanWorkshop」水野雅夫氏で、テーマは「これからの森林に必要なもの

～多目的な利用と森林整備を支える力」。水野氏は、林業をやりたいと15年くらい前に名古屋から岐阜県の郡上へ移住して、師匠から林業を学ぶとともに林業に関するエネルギーな学習が実を結び、今では林業の人材育成の講習に東奔西走しているようだ。

実体験からの自信に満ちた林業の将来に必要な人材育成論には、強く共鳴した。そして、NPO法人を主宰する者として、NPOのあり方、自力を持った林業NPO法人がなぜ育っていないかの辛口な評論は、当を得ていて、今の私にとっては大変参考になり、いい刺激となった。

私が「荒廃する小規模林地の里山を守っていくには、わがNPO法人はこれからどういう歩みをして行きたいだろうか？」と、質問をしたところ、水野氏は、こうおっしゃった。「仲良しクラブでは林業はやってはいけない。30年、40年も経験してきた林業者でも、自然界での林業作業では、経験則どおりにいかない倒木や造材の現象が発生し、不幸にも災害に遭遇してしまう林業者が全国には後を絶たない。それが林業の現実だ。そういう意味からも、我が国の林業を発展させていくには、100人の森林ボランティアを



養成するよりも、1人の林業者としての人材育成をすることが必要だと、私は思う。」と。

講演後に名刺交換をした際に、先ほどは失礼なことを申しましたと、水野氏は恐縮していたが、私は決して不快感はなかった。むしろ、これから本格的に「ふるさとの森林」を再生する活動を発展させていくために、いい指導者に巡り合えたと思っている。一度、時ノ寿の森にお招きしたいと思う。

2011年8月12日(金)

宮脇先生・掛川の鎮守の森を巡る

国際森林年を記念し、土地本来の本物の森づくりを市民運動として社会に大きく広めようと企画した「宮脇昭先生と巡る鎮守の森ツアー in 掛川」が、今日12日開催しました。連日の猛暑で、今日も35℃を超える掛川市内であったが、タイ国の植樹から帰国されたばかりなのに休養も惜しまず、喜んで宮脇先生はお越しくございました。そ



して、その宮脇先生の熱い説明を聞きながら鎮守の森を歩きたいと30名の参加者が集まってくれました。クラブ員とご家族17名のほか、一般者では県内から1名で県外からは13名も参加してくれました。宮脇先生の魅力はもちろんですが、掛川市の本物の森をこれほど多くの県外の方々にご覧いただけることを、とてもうれしく思います。

標高500mを超える栗ヶ岳山頂のアカガシ・タブノキ・ウラジログシなどの大木と大岩が並ぶ太古の森は、神秘的でタイムスリップしたかのような錯覚を起こさせました。猛暑の炎天と比較にならない涼しい風の流れる森の中になると、まさにパワースポットと言っているのでしょうか、体の中の汚れが浄化され、沸々と力が湧いてくるような思いが、誰となく参加者から口々から聞こえてきました。

宮脇先生も、若い女性たちに囲まれながら生態学に基づく樹木の特徴や、その樹木の下層に生息する小さな植物まで見逃さずに、参加者たちに分かりやすく説明して下さり、どの鎮守の森でも時間を忘れてしまいました。

素晴らしい皆様との出会いが、鎮守の森を通じて出来ましたことを心から感謝し、またこの出会いが、これからの時ノ寿の森クラブの「森と海をつなぐいのちの森づくり」にお力添えになりますこと念じています。

2011年9月3日(土)

クラブ創立記念日・5周年

5年前の2006年9月3日、時ノ寿の森クラブが創立しました。ふるさとの森が荒廃し、年々川を流れる水の量は減少して行く現実を見ながら、このままでは未来の子どもたちは、ふるさとの山や川の本当の豊かな姿を知ることができなくなってしまうと案じ、19名の賛同者が共鳴してくれて、静岡県掛川市に森林再生運動を進める時ノ寿の森クラブが生まれました。



森林再生運動は、日本の国土を守るために大切な市民運動ですが、まさに泥臭い地道な活動です。時ノ寿の森クラブは、その運動を楽しみながら進めて行こうと思います。クラブ会員が、仲良く・楽しく・夢を持って活動して行けば、周りの人々も運動に集まって来てくれると信じています。

昨年4月、組織をNPO法人にして新たな出発をし、会員数も100名を超えました。しかし、今こそ初心に返ることが大切だと痛感しています。会員自らが、森の恵みを楽しみ、森の大切実感して再生活動に主体的に参加してくれているか・・・？ 5年前にクラブを創立した主宰者として自覚を新たに、明日から6年目を歩んでいきたいと思えます。

会員の皆様、この5年の間には、それぞれに生活もいろいろと変化しています。5年前と自らの意思は変わってはいなくても、クラブの活動に参加できる時間が公私にわたる生活の中で捻出できなくなった人もいます。人生ですから、それが当然です。今は参加できなくても、時ノ寿の森クラブは、未来に向かって永遠に活動を継続して行きますので、未来の子どもや孫たちのために、会員としてご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

2011年9月11日(日)

森づくりは国づくり・人づくり

今年4月30日に実施した「第3回いのちの森づくり植樹 in 倉真」の記念看板が完成しました。この植樹は、3.11東日本大震災による多くの人々の尊い犠牲を教訓にして、いのちを守る森づくりを全国各地でさ



らには世界各国で展開しようとして毎日新聞社が企画した「いのちの森づくりリレー植樹」の第1弾として静岡県掛川市倉真地域を会場に開催しました。そのような意味において、私たちは、障害を持った人も一緒に植樹をしてもらいたいと思い、市内の福祉施設や特別支援学校に通う児童生徒や大人の方々にご案内をし、60名もの障害者の人たちが参加してくれました。これこそが、国民総参加による国づくりではないかと思えます。

地震国日本だから、東日本のような大規模地震が、どこで起きるやもしれません。そして、私たち人間が自然を変えてしまったため、集中豪雨も全国各地で発生し、その結果、先日の紀伊半島各地のような大規模土石流が起きるのです。

1年の間に、これほど自然の脅威を見せつけられた今こそ、私たちは国土を守る森づくりを、国民総参加で行わなければいけないのではないのでしょうか。そして、膨大な森づくりは、あらゆる分野がつながらなければ持続して行きません。森づくりを続けて行けば、それが人づくりになると確信します。

時ノ寿の森クラブは、森づくりへの気持ちを新たにして、これから会員が協力し合い、多くの市民に参加を呼び掛け進んでいきます。